

# 「動く」家具を媒介とする日本型「無限定性」 教室の創出 - 西洋型空間からの脱却 -

長崎大学教育学部  
佐々野 好 継

The classroom - type created of Japanese 「multi-purpose room」  
through the medium of 「more」 furniture-free from space-type of  
European and American -

Yoshitsugu SASANO

Faculty of Education, Nagasaki University

(Received October 31, 2013)

## 1 . 序

### 1 . 1 研究の背景

長崎大学教育学部における耐震改修工事が平成19年度に実施される。平成20年度には、小学校教育コースに教科授業実践専攻が新設される。

そこで、耐震改修工事を活用し、新専攻の学習活動に柔軟に対応し、かつ教育基本法に示す社会性を育成するための新しいタイプの教室モデル：「無限定性」教室を創出することが提案された。

文部科学省は、『小学校施設整備指針<sup>1)</sup>』の中で、これからの学校は「多様な学習内容・学習形態による活動を可能とする施設として計画することが重要である。その際、児童の主体的な活動を支援する工夫や児童の持つ豊かな創造性を発揮できる空間として計画することも重要である」ことを示している。

したがって、「無限定性」教室モデルは、この計画の指針を基礎に構想することにした。

なお、「多様な学習内容・学習形態による活動を可能とし、児童の主体的な活動を支援することが可能な施設・空間の計画」の視点は、大学レベルにおいては東京大学駒場アクティブラーニング KALS をはじめ、青山学院大学「E - 306教室」などで誕生してきている。<sup>2)</sup>

### 1 . 2 研究の目的

本研究の主な目的は、『小学校施設整備指針<sup>1)</sup>』の中で示されている「児童が主体的に活動し、さらに多様な学習形態・学習内容や弾力的な集団による活動に柔軟に対応できる」教室モデル：「無限定性」教室を教育学部の空間に創出することである。

なお、その具体的な課題を、以下に示す。

(1) 「無限定性」教室において創出される 全体の1室、 個別の1室、 集合の1室の3パターンと、「多様な学習形態・学習内容」との対応関係を明らかにする。

(2) 「無限定性」教室における3パターンと、大学生の主体的な活動との対応関係を明らかにする。

(3) 「無限定性」教室を、既存の耐震改修工事等に活用するという視点からの検討を行なう。

### 1.3 研究の方法

(1) 「無限定性」教室の創出 (図1)

#### 1) 教室モデルの創出

本研究の主な目的は、『小学校施設整備指針』の中で示されている「学生・子どもたちが主体的に活動し、さらに多様な学習形態・学習内容や弾力的な集団による活動に柔軟に対応できる」「無限定性」教室を創出することである。したがって、この「無限定性」教室のモデルを図2に示す日本の伝統的な民家：「四間取り」の空間構造に求めた。

なお「四間取り」を活かす空間構造は、教育基本法に示す「公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」に貢献できると考えた。

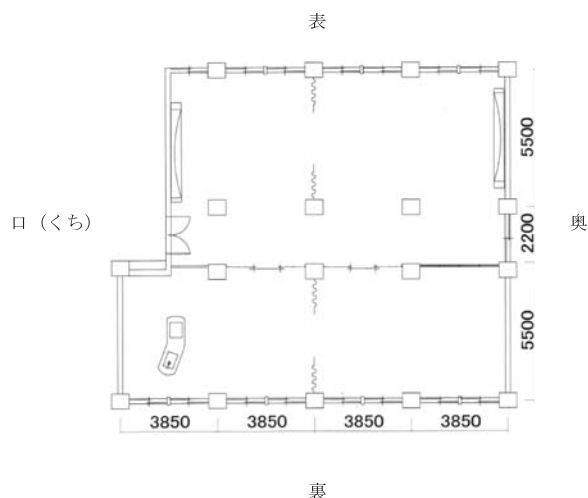


図1 「無限定性」教室

#### 2) 「無限定性」教室の構造

図1に示す「無限定性」教室は、「全体」の1室が、直交2軸の可動間仕切りによって個別の1室に分割できる空間構造を特徴のひとつにしている。

また、「無限定性」教室は、出入り口のある方の空間を「口(くち)」、その反対の方向を「奥」とする「口と奥」の空間軸と、それと直交する形で「無限定性」教室の入り口に近い方の空間を「表」、その反対の方向を「裏」とする「表と裏」の空間軸が存在している。

土間	ナイショ	ナンド
	アダノマ	ザシキ

図2 四間取り

## (2) 調査の方法

### 1) フィールド調査の実施

長崎大学教育学部の「無限定性」教室における「学習活動と空間」との対応関係についてのフィールド調査を平成20年度から平成22年度まで実施した。

また、比較研究の対象として長崎大学教育学部附属小学校や福岡市・博多小学校などを選出し調査を実施した。

### 2) 調査内容

#### 予備調査

まず、「無限定性」教室などの平面図（縮尺1：100）や配置図（縮尺1：200）を調査・採取した。

#### 本調査

「学習活動と空間の対応関係」などが本調査の主な内容である。予備調査で採取した平面図の上に教師の「立ち位置」や学習活動領域などをプロットし、「活動と空間」の法則性を検討した。なお、授業内容の重要な場面転換においては写真撮影を実施し、記録・保存した。

また、活動と空間を媒介する家具の調査も実施した（縮尺1：50）。

家具配置の調査における分析データの一部を図3および図4に示す。

#### 補充調査

岩手県立岩泉小学校および長崎県立高田小学校における文献調査を実施した。また、文献調査において不十分な点は、ヒアリングなどの補充調査を実施した。

### 3) 分析の方法

#### 一致差異併用法の適用

「無限定性」教室における有効性の検証においては、「普通教室」との一致差異併用法を適用した。

学習形態の分析には、(i) 個別学習、(ii) 小集団学習、及び(iii) 一斉学習の3つの視点で分析した。

授業分析においては、「導入 - 展開 - 整理」を縦軸に、空間を横軸とする2元配置法のシートを作成し・活用した。

「生きる力」を育成する新学習指導は、「知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」のバランスが重視されている。したがって、この2つの活動場所と

空間との対応関係には特に注目し、分析を行なった。

#### 4) 調査結果

「無限定性」教室における「全体」の1室は、教育実習の時に活用されていた。総合学習の時には、「表・口」、「表・奥」の「表の空間」の2室が、部分集合の「1室」として機能・活用されていた。部分空間・個別の1室である「裏・奥」の空間は、教員の講座会議や学生の自主学習などに使われていた。

「無限定性」教室は、可動間仕切りによる「表・裏」、「口・奥」の直交2軸で構成されている。この「全体」と「部分」の関係およびそれによって生じる空間の性質が『小学校施設整備指針』に示されている「児童の主体的な活動を支援する工夫」として機能していることが明らかになった。

「表と裏および奥」の空間秩序は、大学生の社会性の育成に貢献していることが明らかになった。さらに、これは、教育基本法に示す「公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」の育成につながると考えられた。

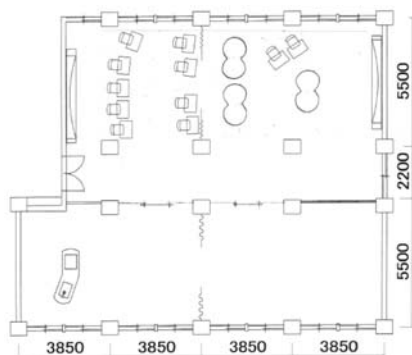


図3 総合学習：家具の配置

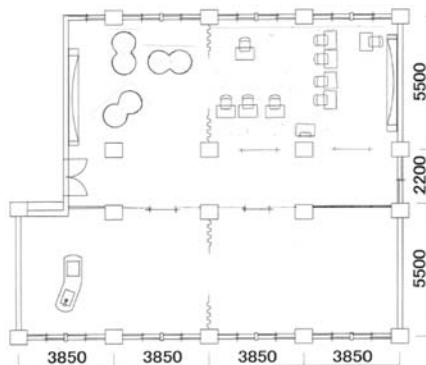


図4 複式授業：家具の配置

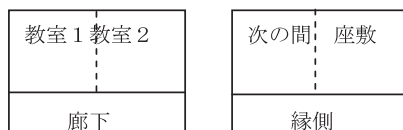


図5 2空間1単位の教室

岩泉小学校における「算数」の授業は、教室の前黑板の空きスペース、屋上、校庭などが活用されていた。

すなわち、児童の主体的学習活動には教室の前黑板の空きスペースだけに限らず、展開されていることが明らかになった。

#### 4. 結論

##### 4.1 結論

「無限定性」教室における 全体の1室、 個別の1室、 部分集合の1室の3層構造は、多様な学習内容・学習活動などの教育機能に柔軟に対応し・活用されていることが明らかになった。

「無限定性」教室における「表と裏および奥」の空間特性に対応した学習活動を学生が主体的に使い分け・活用していることが明らかになった。

また、直交2軸による可動間仕切りは、社会性の育成に機能していることが明らかになった。

「無限定性」教室における「動く」家具は、主机・椅子に、脇机、および「ホワイトボード」の3点セットが基準となり機能していることが明らかになった。

また、「動く」家具は、新しい学習形態やコミュニケーション活動を支援する機能があることが明らかになった。

長方形の前黑板のある「普通教室」においては、「子どもたちの主体的な活動を支援し、多様な学習形態・弾力的な集団による活動」には限界があることが明らかになった。

「無限定性」教室は、既存の学校施設における耐震改修工事等において、創出可能な教室モデルであることが明らかになった。すなわち、中廊下型の校舎においては、中廊下の奥に直交2軸の空間構造の教室を創出できる。また、北側片廊下型の校舎においては、間仕切り壁を可動間仕切りにすることで図5に示す「廊下付・続き間」の教室を創出することができる。

##### 4.2 今後の課題

長崎大学教育学部における耐震改修工事が終了し、約5年が経過している。その間、多様な「学習活動」が成立してきている。また、学生の自主的な空間管理や、定期的な清掃などが現象している。したがって「無限定性」教室の継続調査を実施したい。

長崎大学は、昨年度アクティブラーニングの空間を創出した。特に、「柱のない正方形の空間（A11番教室）」と「柱のある正方形の空間（A12番教室）」が注目される。「正方形の空間」と「無限定性」教室の比較研究および「正方形の空間」の使われ方調

査が、今後の課題である。

#### 参考文献

- 1 . 文部科学省大臣官房施設企画部：小学校施設整備指針 文部科学省 平成21年 3 月
- 2 . 山内祐平 [ 編著 ]：学びの空間が大学を変える ボイックス株式会社 2010年
- 3 . 文部科学省：小学校学習指導要領 東京書籍株式会社 平成20年 3 月